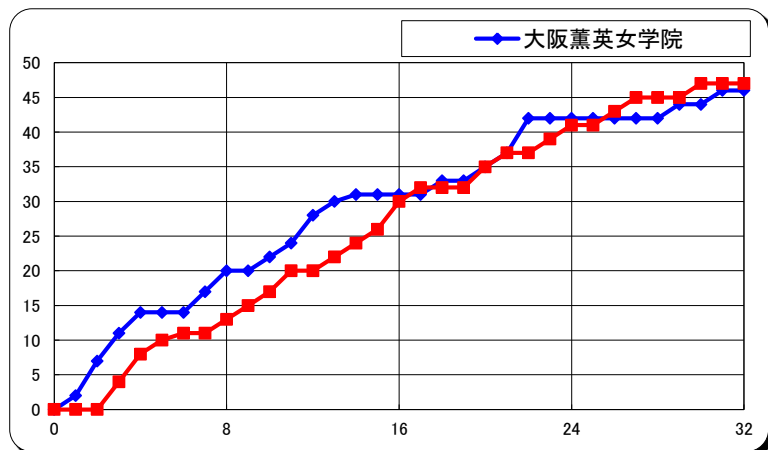




【得点経過】



大会名	東日本大震災復興支援平成24年度全国中学校体育大会第42回全国中学校バスケットボール大会																	
会場	さいたま市記念総合体育館																	
日時	平成24年8月22日(水) 9:30																	
コート	Bコート 第1試合																	
カテゴリー	女子	予選Jリーグ																
主審	竹澤 友美	(埼玉県)																
副審	遠藤 悟史	(埼玉県)																
Team A	大阪薫英女学院 (大阪府)	46	Team B 浜松開誠館 (静岡県)															
		<table border="1"> <tr><td>20</td><td>1st</td><td>13</td></tr> <tr><td>11</td><td>2nd</td><td>17</td></tr> <tr><td>11</td><td>3rd</td><td>11</td></tr> <tr><td>4</td><td>4th</td><td>6</td></tr> <tr><td colspan="3">OT</td></tr> </table>	20	1st	13	11	2nd	17	11	3rd	11	4	4th	6	OT			47
20	1st	13																
11	2nd	17																
11	3rd	11																
4	4th	6																
OT																		

【BOXスコア】

Team A		大阪薫英女学院						
番号	選手名前	出場	得点	3P	2P	FT	反則	
4	樋田 唯莉	×	2	0	1	0	1	
5	澁谷 咲月	×	9	1	2	2	2	
6	井上 桃子	×	10	0	5	0	4	
7	芦谷 美咲	/	2	0	1	0	1	
8	河合 茜音	×	7	0	2	3	3	
9	高浪 彩香	DNP	0	0	0	0	0	
10	亀山 小百合	DNP	0	0	0	0	0	
11	松本 瑞稀	DNP	0	0	0	0	0	
12	清本 麗華	/	1	0	0	1	1	
13	岡崎 彩花	DNP	0	0	0	0	0	
14	久保 実嬉	×	15	1	6	0	2	
15	津代 葵	/	0	0	0	0	1	
16	紀ノ岡 翠	DNP	0	0	0	0	0	
17	今田 優希	DNP	0	0	0	0	0	
18	藤原 美耶萌	DNP	0	0	0	0	0	
監督	市川 藤乃						0	
コーチ	川嶋 裕彰						0	
合計			46	2	17	6	15	

Team B		浜松開誠館						
番号	選手名前	出場	得点	3P	2P	FT	反則	
4	小幡 美乃理	×	16	0	7	2	0	
5	中村 香音	DNP	0	0	0	0	0	
6	伊藤 里奈	×	13	0	6	1	2	
7	山口 史乃	×	4	0	2	0	1	
8	小久保 由衣子	×	5	0	2	1	3	
9	木下 瑞穂	/	2	0	1	0	0	
10	平野 未来	/	0	0	0	0	0	
11	内山 茜	DNP	0	0	0	0	0	
12	千原 由維子	DNP	0	0	0	0	0	
13	石津 知己	DNP	0	0	0	0	0	
14	陽本 麻優	×	7	2	0	1	3	
15	松下 奈央	DNP	0	0	0	0	0	
16	富安 優理	DNP	0	0	0	0	0	
17	太田 幸那	DNP	0	0	0	0	0	
18	滝川 美羽	DNP	0	0	0	0	0	
監督	宮崎 善一						0	
コーチ	石川 奈美						0	
合計			47	2	18	5	9	

【戦評】

予選リーグ1試合目、両チームともマンツーマンDefでスタート。薫英#6のジャンプシュート、#8のバスケットカウントで1ショットも決め優位に展開する。一方、開誠館は、1対1から反撃に出る。#7のバックシュートで得点をとるが、薫英はインサイドの#6が着実にゴール下を決め11-2とリードする。開誠館は、インサイドに守りの中心を置き、早い展開から確実にシュートを決め、残り2分30秒で#8のゴール下がバスケットカウントとなり14-11と3点差につめる。しかし、薫英はその後も#8のインサイドを軸に得点を重ね、20-13で1Q終了。2Qは開誠館は2-1-2のゾーンに変えると勢いづき、#4#6が1on1からレイアップを決め点差をつめる。しかし、薫英は#14の3P、ジャンプシュートが決まり、一進一退の攻防が続き、31-30と薫英リードで前半終了。

後半、薫英1-2-2、開誠館は2-1-2のゾーンでスタート。薫英はシュートが決まるとオールコートマンツーマンとDefに変化をつける。両チームの#14が得点するが、思うように得点が伸びず、開誠館も2-2-1のプレスを使い42-41で3Q終了。4Q、薫英はマンツーマンに戻すが、開誠館#4がジャンプシュートを決め逆転すると徐々にペースをつかみ出し、薫英は3分36秒42-41でタイムアウト。オールコートで激しくあたり#14のリバウンドシュートで1点差に詰める。開誠館も#4のゴール下で再び1点差となり開誠館が残り1分21秒でタイムアウト。お互いに激しい守り合いでその後得点にならず、46-47で開誠館の勝利。どちらも気力が全面に出て、開幕戦にふさわしい一戦となった。

【戦評記入者】

原田 学